



ご自慢のグランドピアノとドラムなどが並ぶ。窓も大きく明るい雰囲気

といわれた。早苗さんは「もつと道路に近いところに建てたかったけど、そこは水道が難しいと言われて」と、少し残念そうだ。建設予定地にある電柱を移動し、インターネットを引いてもらうなどの交渉も必要だった。

肝心なのは店舗。夫は純日本風、妻はカナダや北欧風が好みで、最初は意見が合わない。各地の喫茶店巡りをしたり、ネットで調べたり、工務店の内覧会に参加したりと、検討を重ねた。結局、妻の好みの北欧風に軍配が上がった。

イベントホールに不可欠なドラム、グランドピアノなどの楽器類・設備類も自前で揃えた。設計の段階で反響板も入れてもらっている。小さいながらも、ホールとしては完璧だ。その間、2人揃って食品衛生責任者の講習会に参加、コーヒーの資格を通信で取るなど、夫



ふらっと来て珈琲で談笑

の定年前には準備万端整えた。

「後から暖炉を追加するとかの変更もいろいろとあって、果たしていつ完成するのかと思ったこともあります。でも、忙しかったけど、楽しかったですよ」と振り返る。こうして「リッカフスS.A.N.A」は2013年11月28日に開店した。

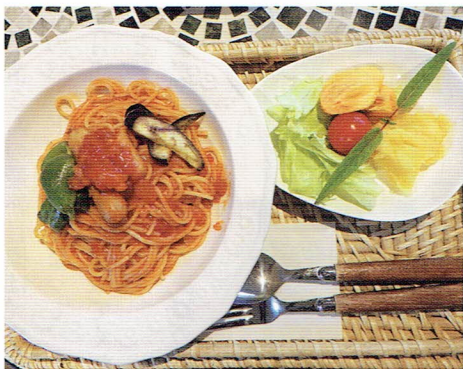
それにしても、リッカフスとは聞き慣れない言葉だ。サーナは早苗のこと。その上につける枕詞がほしくて悩んでいたら、息子のお嫁さんが提案してくれた。スエーデン語で「幸せの家」という意味だそう。北欧風を目指していたので、それはいい！と決めた。「ただ、日本人には耳慣れない言葉ですすね。そこまで考えなかったの(笑)。どこにもない名前がいいだろう」と思ってた。

ゆったりペースで運営

喫茶の営業は木・金・土・日の週4日。コーヒー、紅茶、ケーキなどに加え、カレーやパスタ、サンドイッチなども提供する。材料の野菜類や米は自宅の畑と田んぼで作ったものだから、仕入れ代はほとんどかからない。

康雄さんの昔の同僚などがふらっと寄って、コーヒーを飲んでいく。昔の教え子が成人式などの帰りに寄ってくれることもある。早苗さんが60歳になったときには、ケーキと花束を持ってお祝いにきてくれた。「あら、誰だっけ。顔見ているうちに思い出すんですけど(笑)」。お店だから、教え子も訪問しやすいのだ。

イベントはクチコミや人とのつ



ランチセットの食材もほとんどが自前

ながらで実現するものが多い。ジャズライブの場合は、スケボーに乗ってやってきた男の子が、ここで演奏したいと言いつ出した。何回か演奏を聞いて、これなら大丈夫と始め、今では1年に2回の定期演奏会となった。民話ライブも先方からの申し出があつて実現した企画だ。このような場を求めている人は多いのだろう。



地元の人も気軽に使う



定期開催のジャズライブ